

議会運営委員会行政視察報告書

議会運営委員会の行政視察を実施した結果について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 期 日 令和4年10月13日（木）～ 14日（金）
- 2 視 察 地 神奈川県茅ヶ崎市、茨城県取手市
- 3 目 的 (1) 神奈川県茅ヶ崎市議会
「一般質問における重複質問の調整について」
「各委員会での政策討議について」
(2) 茨城県取手市議会
「オンラインを利用した議会運営の取り組みについて」
「ICTを活用した市議会の危機対応の取り組みについて」
- 4 参 加 者 阿 部 清 佐 藤 耕 治 後 藤 健一郎
古 沢 清 志 沖 津 一 博 木 村 寿太郎
柏 倉 勝 郎（議会事務局）
- 5 視 察 概 要 別紙のとおり

令和4年11月18日

議会運営委員会
委員長 阿 部 清

寒河江市議会議長 國井 輝明 殿

神奈川県茅ヶ崎市の視察概要

1 茅ヶ崎市の概要

茅ヶ崎市は、人口約244,000人、面積35.76㎢で、湘南エリアの中心に位置する約6km四方のコンパクトな街です。南は海、北は里山、中央には商業エリアと自然環境、都市機能がバランスよく配置されており、平坦な地形が特徴である。神奈川県内33の市町村の中で7番目の人口規模、18番目の面積規模となっており、比較的人口が密集している地域と言える。

都心へは、電車で1時間かからず、電源使用が出来る特急「湘南」も整備されているので、通勤時に活用することも可能であり、夜が遅くなっても終電は東京発で12時近くまでであるので安心である。車の利便性も改善されており、圏央道が開通したことで、茅ヶ崎から直接、高速道路で各地へアクセスが出来るようになっている。

持続可能な街づくりへの意識が強く、市内には豊かな環境を守るべく、活動されている事業者が多く、廃棄ロスの削減や社会貢献活動など、環境を意識した活動が多く行われている。また、総合計画にSDGsを盛り込むなど、市としても持続可能な街づくりに取り組んでいる。

2 財政の状況

(1) 令和4年度一般会計当初予算	76,550,000千円
(2) 自主財源	43,891,735千円(57.3%)
(3) 依存財源	32,658,265千円(42.7%)

3 一般質問における重複質問について

茅ヶ崎市議会では、「質問は市民を代表して行うものであり、前の議員が質問したことを後の議員が発言することは考えられないことである。」として、本会議にかかるコストを試算したところ、関係職員の人件費は1時間19万円になる。コストに見合う時間の使い方から、重複質問の調整を実施することとなり、議長からの諮問により、議会運営委員会で協議している。当初の仕組みは、通告書提出時に、他の議員が提出した通告書を閲覧し周知を図る。重複があった場合は、議員間で調整を行い、通告書の訂正をお願いしていた。令和2年第3回定例会から仮通告書の運用計画を立て、仮通告書一覧を議員に資料配布し、議会運営委員会で協議し、本通告書を提出する試行を実施する。議会運営委員会では、毎定例会後に反省を振り返り、申し合わせ事項を作成し、令和3年第4回定例会から4回の試行実施後、本導入を決定して実施している。

4 各委員会での政策討議について

茅ヶ崎市議会には、4つの常任委員会があり、各委員会でテーマを選定し、調査研究し、各委員会で政策討議を行い、各委員会が政策提言書の素案を作成している。素案確定後に、全員協議会で常任委員会から全議員に説明し、意見交換を行い、市議会としての政策提言書とすることを諮る。指摘事項があれば委員会で修正し再提出をする。委員会案を議長に提出し、議会の提言書となり、議長から市長へ提言書を提出する流れとなる。 ※条例案の場合は、議会議案として議決となる。
<常任委員会の現在取り組み中の政策討議テーマ> (令和3年～4年度)

総務常任委員会・・新たな社会の仕組みに対応する行政運営及び組織運営について

都市経済常任委員会・・茅ヶ崎市の魅力ある資源を活かしたまちづくり
～市民が誇れる緑の景観の形成～

文化教育常任委員会・・子供たちが主体的に生きるための総合的な取り組みについて

環境厚生常任委員会・・誰もが安心して自分らしく生きるために
～持続可能な地域福祉に向けて～

茨城県取手市の視察概要

1 取手市の概要

取手市は、茨城県の南端に位置し、市域は総面積69.94平方キロメートル、東西14.4キロメートル、南北9.3キロメートルであり、利根川とその支流である小貝川の二大河川が流れる、水と緑に恵まれた人口約106,000人の都市である。茨城県南部の玄関口としてばかりでなく、東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから交通の要となっており、首都圏の都市の中でも、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境を持っている。

昭和60年代から平成にかけては、取手駅・藤代駅周辺地区の開発が進められるとともに、東京藝術大学取手校が開学している。平成11年には、同大学に、先端芸術表現科が新設されたことを契機に、市民、大学、行政が一体となったまちづくりを進め、文化創造・発信の地となるよう様々な事業を展開している。

平成17年、取手市と藤代町が合併し、新たな歴史の扉が開かれ、平成23年には、関東鉄道常総線に、新駅「ゆめみ野」が開業、平成27年には、上野東京ラインの開業に伴い、常磐線が品川駅まで直通となる。近年では、「ウエルネス・タウン取手の創造」に基づき、ウエルネスプラザを始めとした健康、医療、福祉の充実を進めており、首都圏の近郊都市として、二大河川の恵まれた河川空間を活かし、さらに住みやすいまちづくりを進めている。

2 財政の状況

(1) 令和4年度一般会計当初予算	39,010,000千円
(2) 自主財源	26,561,465千円(68.1%)
(3) 依存財源	12,448,535千円(31.9%)

3 オンラインを利用した議会運営の取り組みについて

早稲田大学マニフェスト研究所が、毎年、前年度1年間の全国地方公共団体の議会活動に関する調査を実施し、数値化して発表しており、取手市は、全国初の2年連続全国1位を獲得している。その効果により注目され、全国の多くの議会から視察に訪れている。

取手市議会での活用目的

- ① 会議 コロナ禍によりオンラインによる公式委員会を50回開催している。また、提出議案事前説明は市長と議員が向き合うことなく、招集前の7日前に招集告示がなされ、その3日後に誰もいない議場で、市長がカメラに向かって、議案番号順に、提案理由を委員会で述べるレベルまで事前に説明を行っている。開会日の8時30分には、ホームページにアップされ、世界中、どこでも、インターネットを使えば見る事が出来る。議員は、ライブ配信を自宅で見たり、仕事で見られない時は、ユーチューブ配信を自宅で視聴したり、文字でも見れる。
- ② 現地視察 体育館の補強工事实施業務委託料に関して、議員が現地に行かず職員が事前に現地調査をして、議員はオンラインで確認する。今までは、公用車3台で1時間半かけていて現地視察をしていたが、このやり方だと8分で現場を知ることが出来る。
- ③ 広報・広聴 市民や市P連、医療従事者の皆様の意見を聞く、意見交換会を開催し、課題を

市議会感染症対策会議の議題とし、執行機関に提言する。令和2年8月にタブレットを導入し、同年10月の市制施行50周年にあたり、お祝いのビデオメッセージを作成し、全体のレベルを上げている。

- ④研修 オンラインでの視察の受け入れやオンライン研修、オンライン視察を行っているところ。
- ⑤ ペーパーレス ペーパーレスにより、職員の仕事を大きく変えることが出来ました。議会の資料づくりが無く、時間外の仕事大幅に軽減されている。

議会改革の取り組みは、風土が出来上がっている。議会全体として、議員全員が一丸となり、進む速さは素晴らしい。とにかくやってみようという気持ちが強く、もしダメだったら、また、違う方法を探そうの気持ちで、タブレット2年目で先進的な取り組みをしている。また、「市役所には多くの職員がおり、様々な才能を持った職員がいる。その才能を引き出してやるのも我々の仕事」と当たり前のように言っている。高齢者になるとICTになじめないベテラン議員が多いようで、事務局が、積極的にタブレット操作の研修会を開いて、操作向上に努めており、出来ない議員は居残り操作の特訓を受けて、わからない所は何回も聞いて覚えている。事務局の提案を受け入れる姿勢も議員側に必要であるとの説明があった。

4 ICTを活用した市議会の危機対応の取り組みについて

取手市では、近年、大きな災害は発生していないが、東日本大震災時、個々に活動する議員からの状況報告や伝達に混乱を来した経験から、他市の先進事例を調査して、「取手市議会災害対応規定」を制定しており、ICTを活用した議会災害対応訓練を実施している。

ICTを活用した議会災害対応訓練では、議員には訓練日だけを通知、発災時間は議会事務局長だけ承知しており、議長も知らず、事務局長の「地震だー」の一声から訓練のスタートになる。市議会災害対応規定に沿って、安否確認・市議による情報収集と共有・タブレットで現場写真を撮影・GPSをONにして、位置情報が記録された画像をグーグルマイマップに落とし込む・ズーム会議など、デジタルマップを活用した情報整理を行い、有効活用や災害有事に備える訓練である。